

工芸史・工芸技術史研究室 活動報告 3

令和3年度（2021年度）

History of Kogei / History of Kogei Technology Laboratory Activity Report 3

●三宮千佳／富山大学芸術文化学系

SANNOMIYA Chika / Faculty of Art and Design, University of Toyama

●Key Words: 工芸作品, 展示, Craft works, Exhibition

本研究室は、平成25年（2013）の開室以来、収蔵作品の調査研究、保存管理、展示公開等の業務にあたっている。実物作品をとおして研究と教育を推進し、研究成果の企画展等により、地域に貢献することを目標としている。今回は令和3年度（2021年度）の展示活動その他について以下に報告する。

1. 展示活動

学部内での企画展

令和3年度企画展「芸文の漆工 百花繚乱」

これまで学部が収蔵してきた、日本各地の漆器産地や富山の伝統的漆工品、また現代漆工家の作品など、芸文の漆工作品の全体像が見えるよう、約20点の作品を展示した。

新型コロナウイルスの感染拡大がおさまらず、学外者の観覧を制限せざるを得ない状況となる可能性があることから、当初から学内限定の展示として企画を進めた。

そこで、新しい試みとして、作品5～6点を2週間程度で展示替えをすることとし、長期間にわたり様々な作品を熟覧できるようにした。展示場所も、エントランスホールの食堂側とし、学生が授業への行き帰り等に自由に立ち寄って、鑑賞できるようにした。

また大学院修士課程2年生2名によるプロジェクションマッピングにより、展示会場やケースを華やかに演出する企画も行った。

さらに本展には、博物館学芸員資格科目を履修中の学生を含む学生有志が展示準備全般に参加した。実際に実物作品に触れることで、講義で学修したことを確認でき、日頃の学修成果の発表の場にもなることから、近年の企画展の際には必ず学生も参加している。

伝統工芸の街・高岡に立地する学部として、工芸の研究・教育のために収集された優品を展示・公開することで、実物から様式・用途・材料・製作技法の多様な特色を学ぶ機会になることを目的としている。

会場：富山大学芸術文化学系 TSUMAMA-HALL（エントランスホール）

会期：令和3年11月30日～令和4年3月

※基本的に学内の関係者対象の展示とし、「富山大学における新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」及び「新型コロナウイルスに関する対応について」等に従って行った。

テーマと展示作品

※一部都合により日程を変更した。

- (1) 富山の漆器
令和3年11月30日～12月21日
- (2) お正月の漆器
令和3年12月23日～令和4年1月18日
- (3) 琉球と中国の漆器
令和4年1月20日～2月1日
- (4) 根本曠子作品
令和4年2月22日～3月8日



写真1 展覧会ポスター（3年 横山ななみ作成）

2. 収蔵作品の外部機関への貸出

千葉県野田市で醤油醸造を営んでいた高梨平左衛門家（現・キッコーマン）の屋敷や庭園、年中行事や古文書、美術品を保存公開する上花輪歴史館で企画・開催された華道家・大郷理明氏の生花（いけばな）作品展に対し、大郷コレクション青銅花器を貸し出した。

展覧会名：古流松應会『心の花』主宰 大郷理明 生花作品展「一花中（かちゅう）にてー」

会場：公益財団法人高梨本家 上花輪歴史館（住宅棟・眺春庵・展示棟）（千葉県野田市上花輪 507）

会期：令和3年11月26日～28日 10：00～16：00

貸出作品：大郷コレクション青銅花器 計26点

甲虫付瓢形花器（銘 高橋凌雲）、朝顔唐獅子足薄端（銘 整珉）、雨垂れ波千鳥足薄端ほか



写真2 大郷理明「風が吹いてなくても」

3. 地域プロジェクトでの収蔵作品展示

高岡市金屋町、高岡市、本学部が連携して毎年実施している地域プロジェクト「ミラレ金屋町」に対し、収蔵作品を貸し出した。「街なかギャラリー」では、金屋町の伝統的なさまのこ（千本格子）の町家に工芸作品を展示し、金工の町の歴史や雰囲気を感じながら鑑賞することができる。



写真3 ミラレ金屋町 街なかギャラリー 於 KANAYA



写真4 ミラレ金屋町 街なかギャラリー 於フジチュウ

本プロジェクトにも例年のように、学生有志が展示準備に参加した。市役所や町の人々とも交流しながら学ぶ良い機会となっている。

会場：高岡市金屋町（RYUGI、KANAYA、利三郎、フジチュウ、Soup&Cafe もやいこ、高陵金寿堂、茶寮和香、さまのこハウス）

会期：令和4年3月16日～25日

貸出作品：温公甕割り図脚付薄端（須賀松園）、三友文香炉（酒井静女）、蟹文魚籠形花器、片切彫海老文手板（鳥田宗吾）ほか 計28件

4. 授業での収蔵作品の活用

「博物館実習」、「工芸技法・材料」、「工芸基礎演習（漆工）」において、7件（全28点）の貸し出しがあった。主に実習において収蔵作品を活用し、学生が実物作品に触れながら学ぶ、実践的な授業を展開している。

令和3年度 室員

室長 三宮千佳（美術史、博物館学）

室員 齊藤晴之（漆工芸）、内藤裕孝（木工芸）

今淵純子（金属工芸）



写真5 ミラレ金屋町 街なかギャラリー 於茶寮和香